

平成31年度（令和元年度）

全国学力・学習状況調査の結果について（概要）

千葉市教育委員会

千葉市の児童生徒の調査結果について公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは学力の一部であり、各学校の教育活動を多角的に評価・分析した結果と合わせて、学校教育活動の改善に努めてまいります。

1 調査の概要

- (1) 調査実施日 平成31年4月18日（木）
- (2) 調査対象 小学校第6学年、中学校第3学年
- (3) 調査内容 国語 「知識」「活用」を一体的に問う問題
算数・数学 「知識」「活用」を一体的に問う問題
英語（中学校） 「知識」「活用」を一体的に問う問題
質問紙調査（学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等）

2 教科別結果概要

（平成31年度と悉皆調査実施年度との比較）

（1）全国・千葉県・大都市の平均正答率（％）と千葉市全体の結果（ここでの全国は、公立のみを示す）

【資料1】問題別平均正答率一覧（％）[全国・千葉県・指定都市・千葉市]＜平成20～令和元年度＞

【資料1】問題別平均正答率一覧（％）[全国・千葉県・指定都市・千葉市]＜平成20～令和元年度＞

		全国 平均正答率		千葉県 平均正答率		※指定都市 平均正答率		千葉市 平均正答率		全国との 比較		
小学校	国語	令和元年度	64		63		64		64		±0	
			A問題	B問題	A問題	B問題	A問題	B問題	A問題	B問題	A問題	B問題
		平成30年度	71	55	70	53	71	55	71	54	0	-1
		平成29年度	75	58	75	57	75	58	76	59	1	1
		平成28年度	73	58	73	58	73	59	73	59	0	1
		平成27年度	70.0	65.4	71.5	64.5	70.3	65.9	72.8	65.6	2.8	0.2
	算数	令和元年度	67		65		67		67		±0	
			A問題	B問題	A問題	B問題	A問題	B問題	A問題	B問題	A問題	B問題
		平成30年度	64	52	62	51	64	52	64	52	0	0
		平成29年度	79	46	77	46	79	47	78	48	-1	2
		平成28年度	78	47	77	47	78	48	77	48	-1	1
		平成27年度	75.2	45.0	74.7	45.1	75.7	46.4	76.4	47.5	1.2	2.5
平成26年度	78.1	58.2	78.2	58.8	78.3	59.6	79.8	60.6	1.7	2.4		
平成25年度	77.2	58.4	77.1	59.4	77.5	59.8	78.5	62.3	1.3	3.9		
平成21年度	78.7	54.8	79.8	56.3	79.3	56.7	81.6	58.6	2.9	3.8		
平成20年度	72.2	51.6	72.8	53.2	72.8	53.4	75.0	55.7	2.8	4.1		

		全国 平均正答率		千葉県 平均正答率		※指定都市 平均正答率		千葉市 平均正答率		全国との 比較		
中学校	国語	令和元年度	73		72		73		73		±0	
			A問題	B問題	A問題	B問題	A問題	B問題	A問題	B問題	A問題	B問題
		平成30年度	76	61	76	61	76	62	76	62	0	1
		平成29年度	77	72	76	72	78	73	77	72	0	0
		平成28年度	76	67	76	67	76	67	77	68	1	1
		平成27年度	75.8	65.8	76.0	65.7	76.4	66.3	77.6	67.2	1.8	1.4
		平成26年度	79.4	51.0	79.8	51.7	79.5	51.5	80.7	53.0	1.3	2
		平成25年度	76.4	67.4	76.2	68.1	76.5	68.0	77.7	70.7	1.3	3.3
		平成21年度	77.0	74.5	76.8	74.6	76.7	73.9	78.5	76.7	1.5	2.2
	平成20年度	73.8	60.8	72.8	61.8	73.6	61.3	74.3	63.2	0.5	2.4	
	令和元年度	60		57		60		59		-1		
	数学		A問題	B問題	A問題	B問題	A問題	B問題	A問題	B問題	A問題	B問題
		平成30年度	66	47	64	46	67	48	65	47	-1	0
		平成29年度	65	48	63	47	65	49	64	49	-1	1
		平成28年度	62	44	60	43	63	45	62	45	0	1
		平成27年度	64.4	41.6	63.4	41.6	65.3	43.0	65.5	44.9	1.1	3.3
		平成26年度	67.4	59.8	66.7	60.1	67.7	60.9	68.3	61.6	0.9	1.8
平成25年度		63.7	41.5	63.2	41.5	64.2	42.5	65.7	45.0	2.0	3.5	
平成21年度		62.7	56.9	61.6	56.7	63.1	57.3	64.1	59.8	1.4	2.9	
平成20年度	63.1	49.2	61.7	49.1	63.5	49.6	63.4	51.3	0.3	2.1		
英語	令和元年度	56		55		57		57		+1		

※国語と算数・数学の問題は、基礎的な知識を尋ねる「A問題」と、その知識の活用力をみる「B問題」に分かれていたが、H31年度（令和元年度）より次期学習指導要領の方向性に沿う形でA、Bを一体的に問う問題へ改善

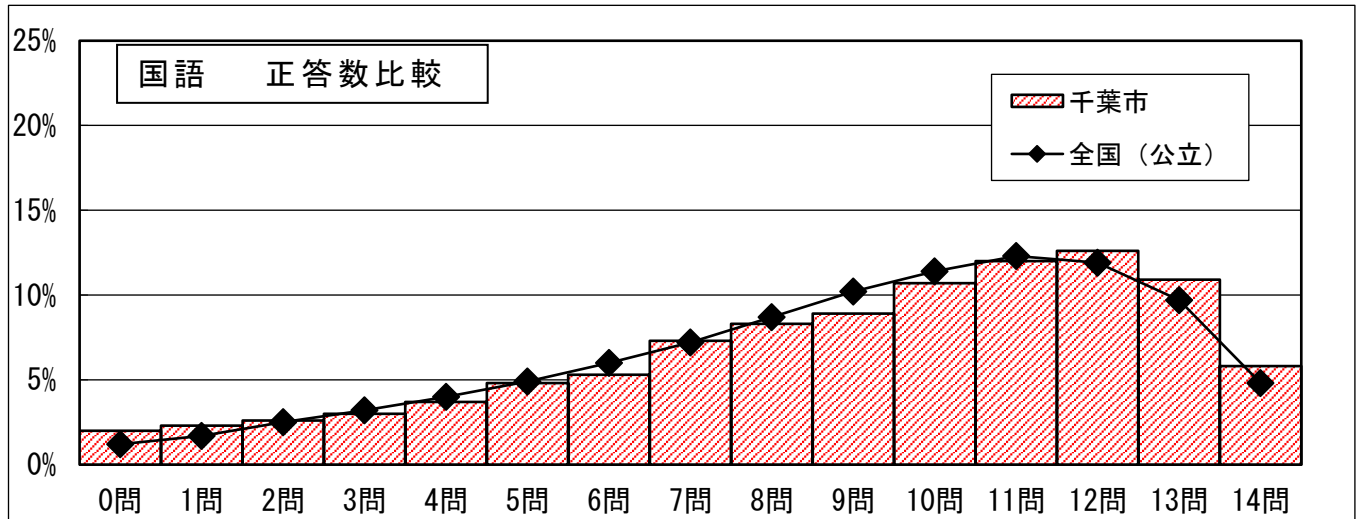
※平成28年度より平均正答率は整数値で公表

※「指定都市」の正答率はH29年度より、H28年度より以前は「大都市」として政令指定都市と東京23区を集計。

※平成22・24年度は抽出校の調査のため経年変化には加えていない（平成23年度は東日本大震災のため未実施）

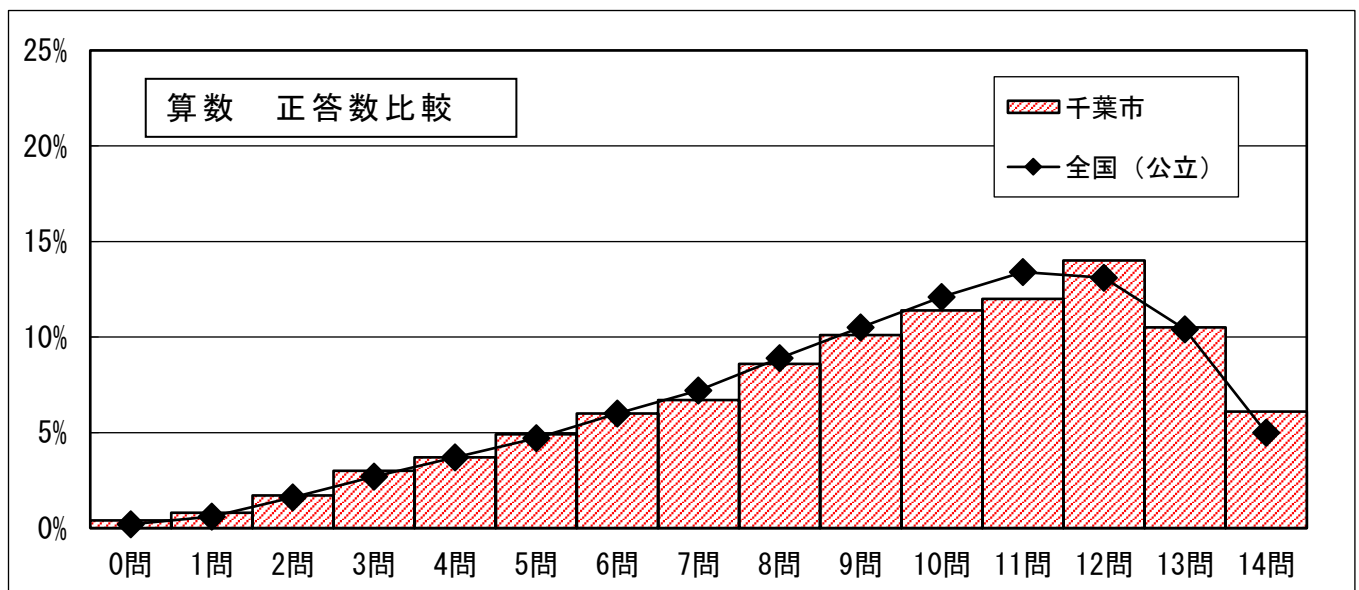
(2) 正答数の分布（全国との比較）

【資料2】正答数分布（横軸：正答数、縦軸：人数の割合）[全国・千葉市] <平成31年度>
小学校6年生国語



	平均正答数	平均正答率	中央値	標準偏差
千葉市	9.0 問／14 問	64%	10.0	3.6
全国（公立）	8.9 問／14 問	64%	10.0	3.4

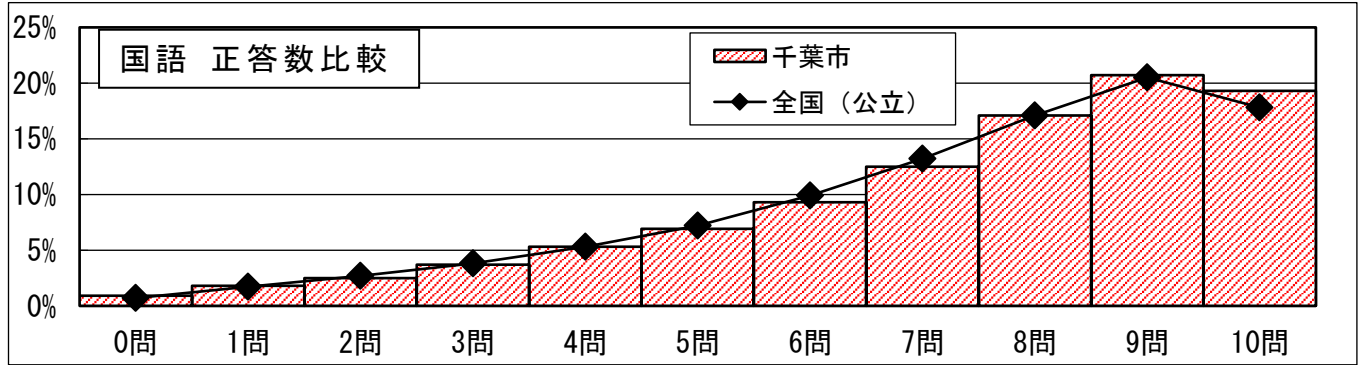
小学校6年生算数



	平均正答数	平均正答率	中央値	標準偏差
千葉市	9.3 問／14 問	67%	10.0	3.2
全国（公立）	9.3 問／14 問	67%	10.0	3.1

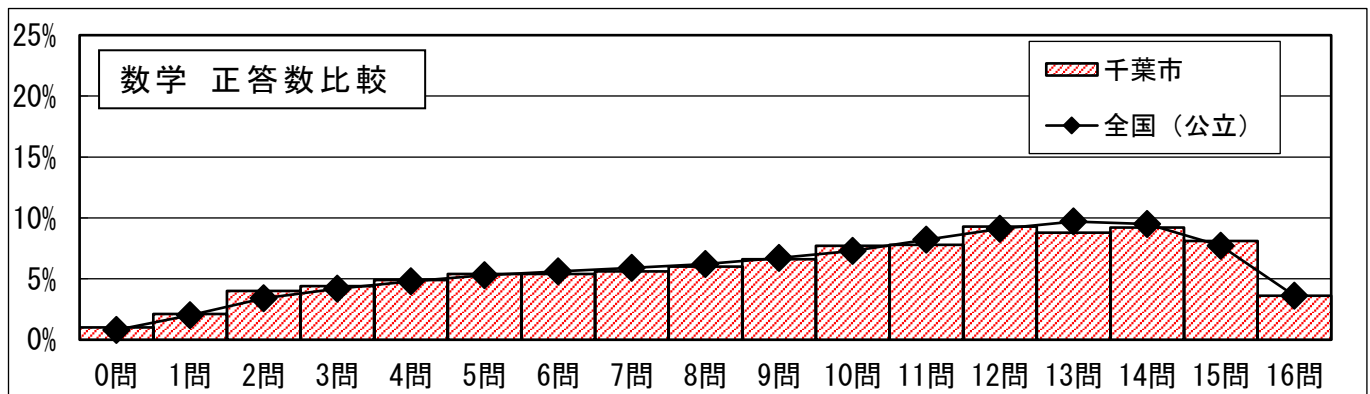
- ・ 国語では、平均正答数が0.1問全国よりも高く、平均正答率は同じである。正答数の分布は、全国と同様に右寄りの山型のグラフになっている。正答数が0～2問の層と12問以上の層の割合が、全国と比較してやや高くなっている。0～2問の層への学習指導を見直し、中位層に引き上げることが課題である。
- ・ 算数では、平均正答数、平均正答率ともに全国と同じ数値である。正答数の分布は、全国と同様の山型のグラフになっており、全国よりも上位層の児童の割合が高いやや右寄りの形になっている。0～3問の層への学習指導を見直し、中位層に引き上げることが課題である。

中学校 3 年生 国語



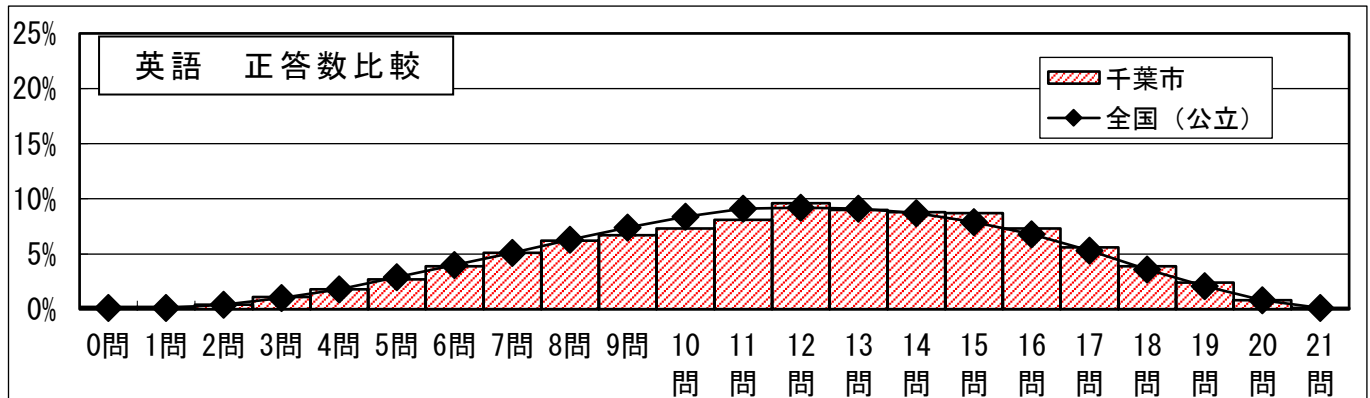
	平均正答数	平均正答率	中央値	標準偏差
千葉市	7.3 問／10 問	73%	8.0	2.4
全国（公立）	7.3 問／10 問	73%	8.0	2.4

中学校 3 年生 数学



	平均正答数	平均正答率	中央値	標準偏差
千葉市	9.5 問／16 問	59%	10.0	4.3
全国（公立）	9.63 問／16 問	60%	10.0	4.2

中学校 3 年生 英語



	平均正答数	平均正答率	中央値	標準偏差
千葉市	11.9 問／21 問	57%	12.0	4.0
全国（公立）	11.8 問／21 問	56%	12.0	3.9

- ・ 国語では、平均正答数、平均正答率ともに全国と同じ数値である。正答数の分布は、全国と同様に正答数の多い生徒の割合が高い、右寄りの山型のグラフになっている。
- ・ 数学では、全国より平均正答数は 0.13 問、平均正答率は 1 ポイント低い。正答数の分布は、千葉市は全国と同様のやや右に寄ったなだらかな山型となっている。下位層と中位層の引き上げを図ることが今後の課題である。
- ・ 英語では、全国より平均正答数は 0.1 問、平均正答率は 1 ポイント高い。正答数分布は全国と同様のなだらかな山型となっている。15～19 問の層の割合が全国と比較してやや高く、平均正答率を上げる要因となっている。

(3) 全国平均正答率との差異から見る各学校の経年推移＜平成 30・31(令和元)年度の比較＞
【資料 3】 全国平均正答率との差異から見る各学校の経年推移表

出題される問題が毎年異なり、調査母体の児童生徒も異なる。また、今年度は問題の形式（A・B を一体的に問う問題）も変わっていることから、今後数年の推移を見守っていく必要がある。

平成 30 年度の全国と各学校の正答率の差と平成 31 年度の全国と各学校の平均正答率の差を比較

※平成 30 年度の数値は、全国、各学校ともに、A 問題・B 問題の平均正答率を合わせて 2 で割った数値を教科の平均正答率として求めている。

推移表記 ㊦:全国平均との差が大きく向上 ㊧:全国平均との差が向上 空欄:全国平均との差に大きな変化がない ㊩:全国平均との差が低下

ア 小学校（条件；平成 30 年度または 31 年度の該当学年の調査実施児童数が 40 人以下の学校については、調査母体による影響が顕著となり、経年比較できないため公表しない。）

学校名	国語	算数
新宿		㊩
本町		㊧
寒川	㊦	㊦
登戸		
院内	㊩	㊩
蘇我	㊦	㊦
都		
都賀	㊦	
検見川	㊩	㊩
稲毛	㊩	㊩
園生	㊩	
若松	㊩	
大森	㊦	㊧
稲丘	㊧	㊩
花園		
猿橋		㊧
幕張	㊩	
長作	㊧	
生浜		㊧
誉田	㊧	
轟町	㊧	
鶴沢		
平山	㊩	㊩
松ヶ丘		
宮崎	㊦	
緑町		㊩
川戸	㊦	㊧
山王	㊧	㊧
小中台		㊩
小倉		
千草台	㊩	㊩
稲毛二	㊧	
あやめ台	㊩	㊩
星久喜		
幕張東		
土気		
桜木	㊩	㊧
宮野木		
生浜西	㊩	㊩
こてはし台	㊩	㊩

学校名	国語	算数
西小中台		
北貝塚	㊩	
幕張西	㊧	
草野		㊩
柏台	㊩	㊩
千城台東		
小中台南	㊦	㊦
幸町三	㊧	
高洲三	㊦	㊧
千草台東	㊩	㊩
作新	㊩	
みつわ台北		
誉田東	㊦	㊦
みつわ台南	㊩	㊩
幕張南	㊧	
都賀の台	㊧	
上の台	㊧	㊧
磯辺三	㊧	㊩
朝日ヶ丘		㊧
生浜東	㊩	
泉谷	㊩	㊩
土気南	㊩	㊩
西の谷		
小谷		
有吉		
打瀬		㊩
金沢		㊩
あすみが丘	㊩	㊩
扇田	㊩	㊧
瑞穂	㊧	㊦
海浜打瀬		㊩
おゆみ野南	㊧	
美浜打瀬		
高洲	㊩	㊩
真砂東		㊩
真砂西		
高浜海浜		㊩
磯辺		㊧
幸町	㊩	

イ 中学校（条件；平成 30 年度または平成 31 年度の該当学年の調査実施生徒数が 80 人以下の学校については、調査母体による影響が顕著となり、経年比較できないため公表しない。）

学校名	国語	数学
加曽利	㊩	㊩
葛城	㊩	㊩
椿森		
緑町		㊧
小中台		
花園	㊧	㊧
新宿		㊩
蘇我	㊩	㊩
幕張		㊧
生浜	㊩	㊩
誉田		
轟町		㊩
松ヶ丘	㊦	㊦
稲毛		㊧
千城台西	㊩	㊩
こてはし台	㊧	
高洲一	㊩	
草野		
幕張西		㊩

学校名	国語	数学
都賀	㊧	㊧
みつわ台	㊧	㊧
緑が丘		㊧
天戸		㊧
若松		㊩
幸町二		
山王	㊩	
朝日ヶ丘	㊧	㊧
貝塚	㊧	㊧
泉谷	㊧	㊩
幕張本郷	㊧	㊩
土気南		
打瀬	㊧	㊧
有吉	㊩	㊩
大椎	㊩	㊩
真砂	㊧	㊦
おゆみ野南	㊧	㊧
磯辺		
花見川		

【資料４】平均正答率の顕著な向上が見られた学校の実践事例＜経年推移の比較から＞
 顕著な向上が見られた学校からは、以下のような実践が報告されている。

〔小学校〕

寒川	国語科における「生き生きと学び 豊かに思いを表現する 子どもの育成～「読むこと」の学習を通して、国語の楽しさを味わわせるために～」の育成を目指した授業改善を図った。算数科での少人数指導における個人差に対応した指導、漢字や計算の基礎基本の定着を図るためのチャレンジタイム（昼休み前の自学）、児童自らが設定した課題に取り組む家庭学習に取り組んだ。
蘇我	「そがっこの話し方・聞き方」の大型資料を全学級に掲示し、全ての教科、領域で指導を行った。国語科、社会科、算数科、理科で児童の思考のあとが分かるノート指導や活用方法を年度当初に教職員で共通理解し、実践した。毎週木曜日を「家庭学習の日」に設定し、保護者用手引き、児童用手引きを配付し、学習習慣の定着を図った。少人数指導と連携し、算数科におけるＴ・Ｔでの指導、グループ別指導など、きめ細やかな指導を行い、児童が主体的に問題解決的な学習活動ができるように校内体制を整えた。
大森	朝学習の時間や授業時間に支援が必要な児童に対して、担任以外の教職員による個別指導を行った。教科によって、座席を替えたりペア学習やグループ学習を行ったりして学び合える座席の工夫をした。掲示物、机に出すものなどを全校で統一し、児童が集中して学習に臨めるような環境づくりに取り組んだ。
川戸	ベテランの教師や、理数教育サポーターの積極的な助言を受け入れ、日々授業改善に取り組んでいる。また、休み時間に積極的に児童と遊んだり、生徒相談を充実させたりと、児童との関係を良好に保つことで学習がスムーズに行われている。
小中台南	板書の仕方やノートの取り方等の学習のきまりの徹底や「話す・聞く」を大事にし、付箋やミニボードを活用し、考えの整理や話し合い活動の充実を図った。個に応じた課題に取り組めるよう、学習内容の難易度に応じた段階ごとのプリントを使用した。また、単元末のテストとは別に、小テストを小まめに行い、個々のつまづきを明らかにすると共に既習内容の復習、定着を図った。作成した学習資料は、学年フォルダに保存し、だれもが利用できるように共有した。さらに、「家庭学習のすすめ」を作成し、家庭学習の大切さについての共通理解を職員間で図った。「家庭学習のすすめ」は各家庭に配付した。
高洲三	全校で言語活動の充実に取り組んできた。国語科では、毎日、家庭学習で音読や読書を継続して行っている。算数科ではドリルやプリントで基礎基本の学力の定着を図ると共に思考力を育む授業を目指している。少人数指導や個別の取出し支援を計画的に行い対応した結果、関心意欲が高まってきた。家庭も学校教育に協力的である。
誉田東	算数の少人数指導教員や理数サポーターの指導を通し、きめ細やかな支援ができるようにしている。また、朝の帯時間に週１回ずつ「国語タイム」「算数タイム」を位置付け、基礎基本の学力の定着を図っている。さらに、６年間を見通したノート指導に取り組んでいる。各教室に「ノートの書き方」を拡大掲示し、「書き写すノート」から「考えて作るノート」にすることを目指すことで、問題解決的な学習課程を理解し、思考力の向上を図っている。
瑞穂	毎日、朝の読書タイムを設け、たくさんの本を読んだ。各教科において意欲化を図る学習の工夫を行った。教え合い活動も行い、みんなで学習する雰囲気を作った。学習でつまづきが見られる児童には、休み時間等に個別指導し、個人差に対応した。

[中学校]

花園	各教科における基礎基本や学習習慣（めあての掲示や振り返り等）の徹底を図っている。とりわけ数学では、授業前に証明の小テストや予習の時間を設け、論理的に説明する力の向上に努めた。
松ヶ丘	学力向上アクションプランで「意欲的に家庭学習に取り組む生徒を増やす」ことを重点目標とし、継続的に学力向上に向けて取り組んだ。放課後定期的に補充学習を取り入れたり、定期テスト前の学習相談を充実させたりと、一人一人にきめ細やかに対応し、職員と生徒の信頼関係を築いた。
みつわ台	全教科の授業において本時の目標と本時の授業の流れを板書した。そのことでねらいや、授業内容を可視化でき理解が深まった。また授業のなかで話し合いと教え合いの時間を積極的に取ったことで、つまづいている生徒に対しての支援ができた。
朝日ヶ丘	小中の相互授業参観や夏季休業中の合同研修会等で、授業規律や生徒理解の連携がなされており、落ち着いた学習態度を育成できている。各教科で定期的に学習内容の定着を図るテスト等を行い、学力の基礎基本の徹底を行っている。定期テスト前や夏季の学習相談の対象を絞り、個人差に対応している。
貝塚	全国学力・学習状況調査の結果を全職員で共有し、傾向と対策を検討。（分析結果を取り入れた授業改善）「読書活動の推進」を図るために、図書委員による朝読書の読み聞かせ活動を行ったり、朝読書の時間を毎朝確保し、読解スキル低下の軽減を図ったりした。生徒の学習意欲向上を図る日々の授業改善として、身に付けさせたい力、毎授業時に「本時の課題」を提示し、内容を明確にした授業実践に努めた。
打瀬	学校研究主題の解明に向けて豊かなコミュニケーション能力の捉え方を明確にし、対話的な学びを行うことで学びを深めるようにした。また、テスト前に行う「学習相談」や実技教科の「サポート学習」、長期休業中に行う「学習サポート」など学習の機会の充実を図っている。
真砂	全教科で指導過程を統一し、思考力を高めるために、「書く活動」を積極的に取り入れた授業改善を行った。それによって、「文章表現が豊かになった」「考える視点が広がった」「多種多様な意見が出るようになった」という成果が上がった。
おゆみ野南	各教科とも学力の基礎基本の徹底を図る。定期テスト前や長期休業など、様々な場面で学習相談を実施していく。「わかる授業」をめざし校内研修を進めている。また、フレッシュ研や各教科部会などを通じて、若手教員の指導力向上に取り組んでいる。

3 質問紙調査結果概要

【資料 5】児童生徒質問紙調査より〔千葉市・全国〕＜平成 31 年度＞

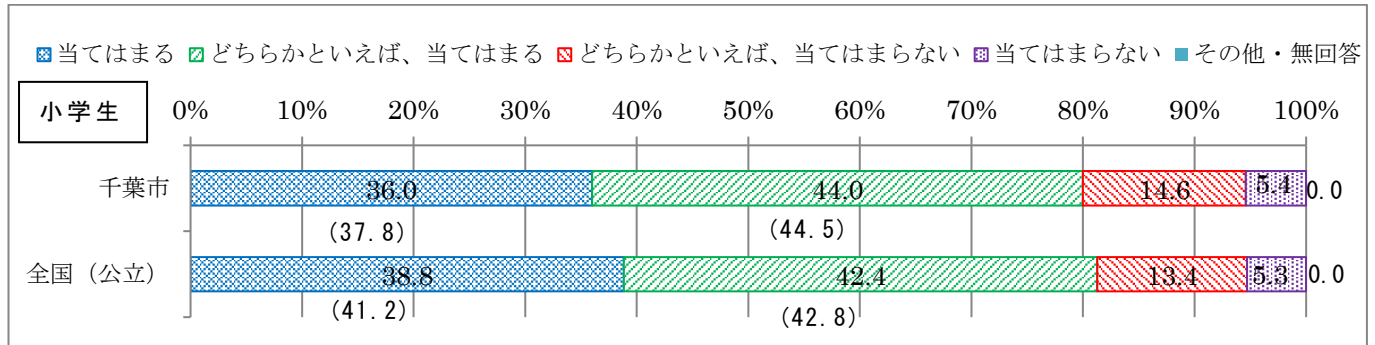
※質問文末の（ ）内の数字は、「児童生徒質問紙調査」の質問番号を示している。

※帯グラフの（ ）の数字は、平成 30 年度同質問の回答の割合を示している。

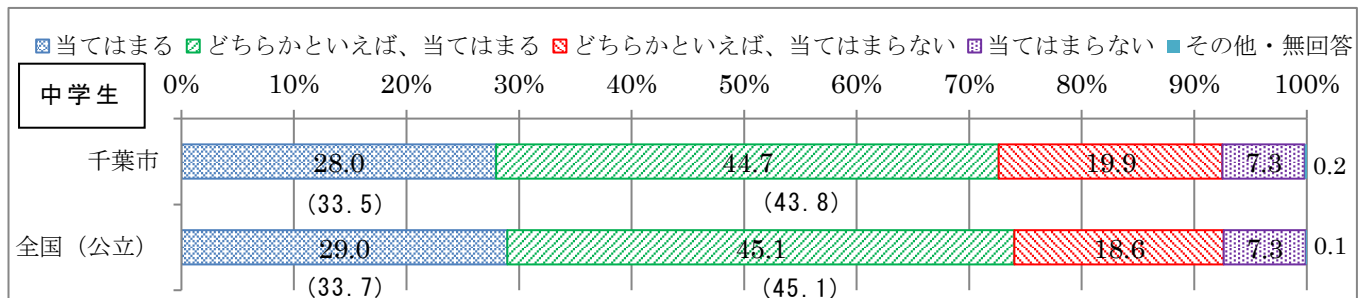
※小数第 2 位以下を四捨五入しているため、合計が 100%にならない場合がある。

〔自己肯定感、将来の夢や目標等に関する意識〕

1 自分には、よいところがあると思いますか。（小 5）（中 5）

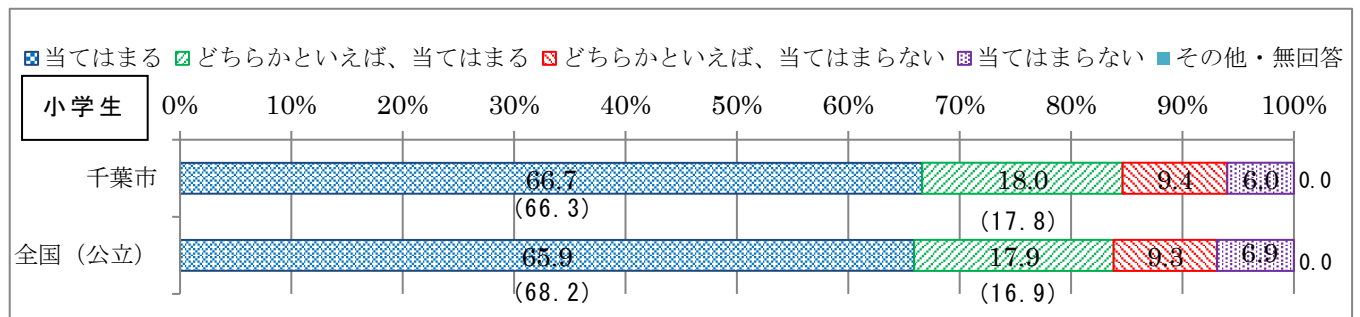


・当てはまる、どちらかといえば当てはまる→80.0%（全国より 1.2 ポイント低い）

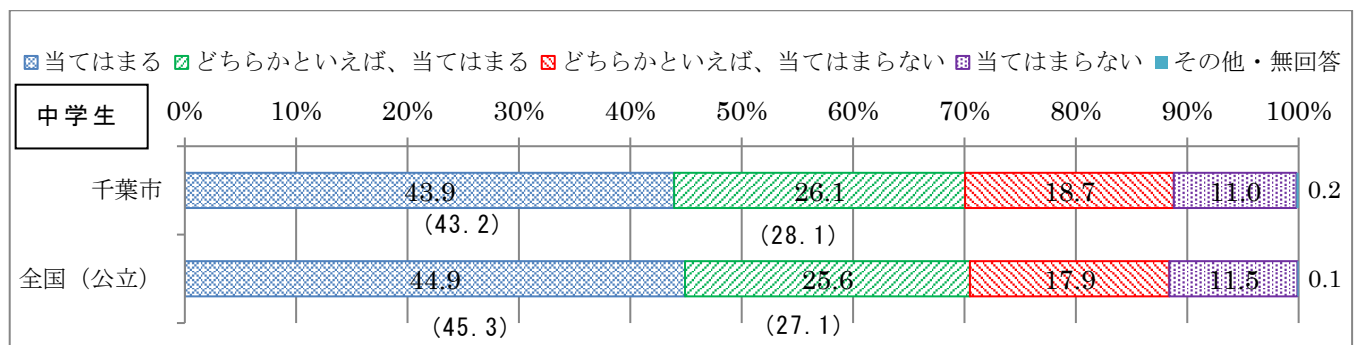


・当てはまる、どちらかといえば当てはまる→72.7%（全国より 1.4 ポイント低い）

2 将来の夢や目標を持っていますか。（小 8）（中 8）

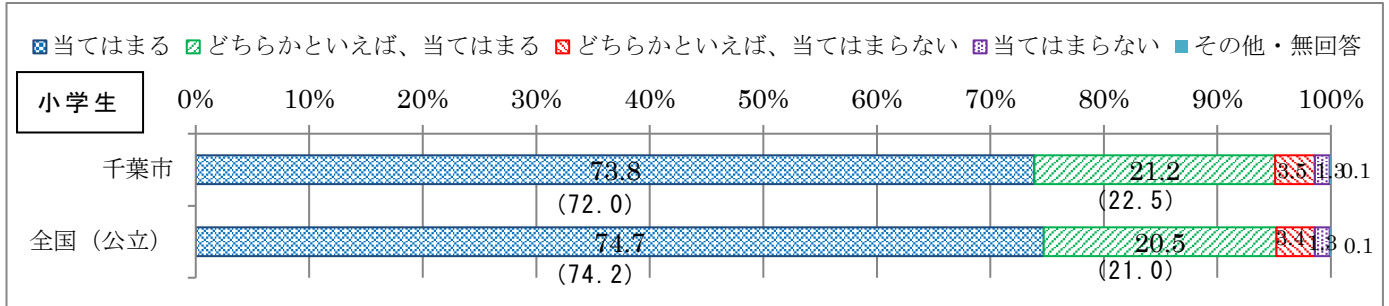


・当てはまる、どちらかといえば当てはまる→84.7%（全国より 0.9 ポイント高い）

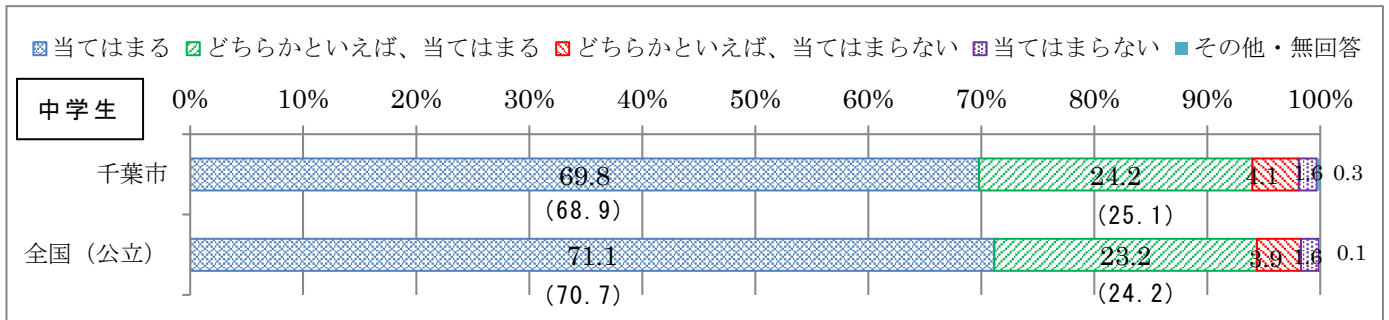


・当てはまる、どちらかといえば当てはまる→70.0%（全国より 0.5 ポイント低い）

3 人の役に立つ人間になりたいと思いますか。(小 16) (中 16)



・ 当てはまる、どちらかといえば当てはまる→95.0% (全国より 0.2 ポイント低い)



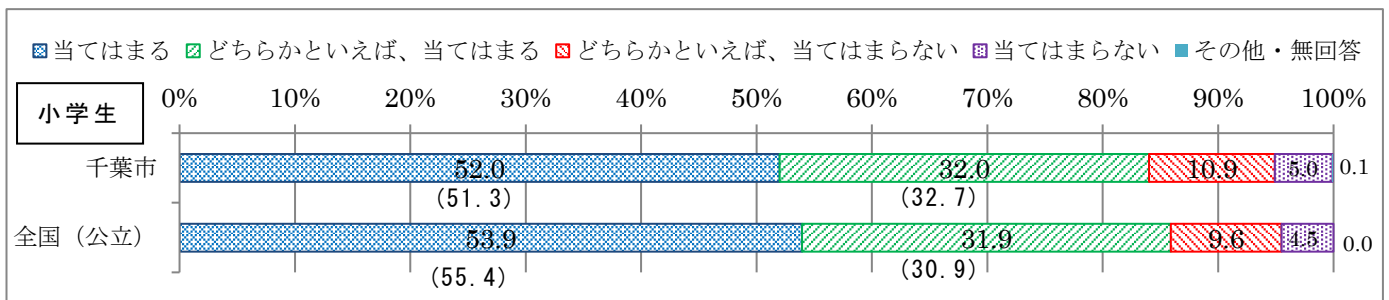
・ 当てはまる、どちらかといえば当てはまる→94.0% (全国より 0.3 ポイント低い)

「自分には、よいところがあると思いますか」の肯定的な回答の割合は、平成 25 年度以降増加傾向が見られ、昨年度初めて小学生が 80%、中学生が 70%を超え、今年度も同程度の数値を示している。将来の夢や目標を持つことについての肯定的な回答率も、小学生が 80%、中学生が 70%を超え、特に小学生は全国を上回る数値を示した。児童が自分の未来を見つめていけるように「生活科」「総合的な学習の時間」等に力を入れてきた成果と考えられる。また、「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」についての肯定的な回答率は、小・中学生ともに昨年度に引き続き 90%を超えている。今後、さらに各教科等の特質に応じた「キャリア教育」の充実に努めていく必要がある。

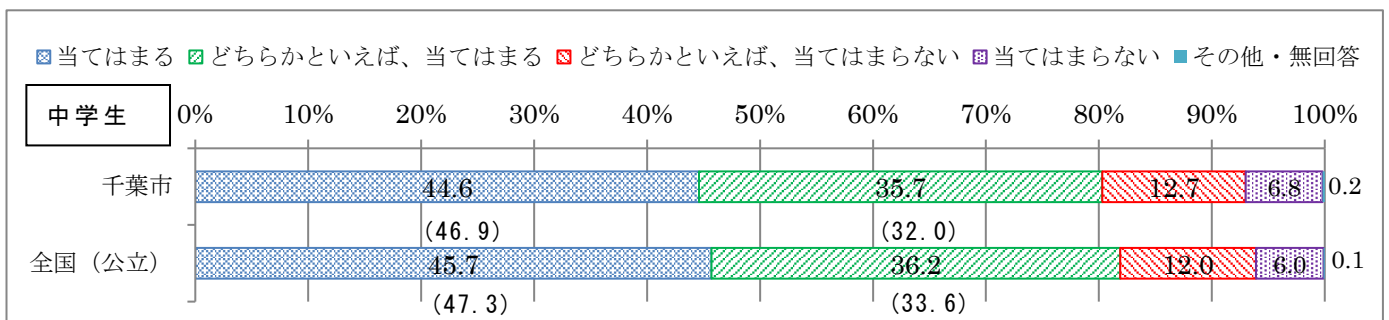
〔学校での生活に関する意識〕

4 学校に行くのは楽しいと思いますか。(小 12) (中 12)

※帯グラフの()の数字は、平成 30 年度に同質問がないため平成 29 年度の回答の割合

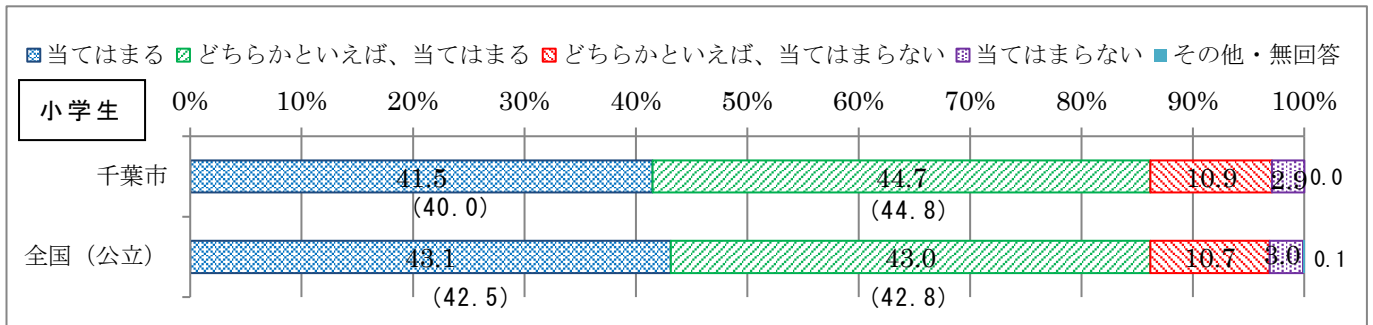


・ 当てはまる、どちらかといえば当てはまる→84.0% (全国より 1.8 ポイント低い)

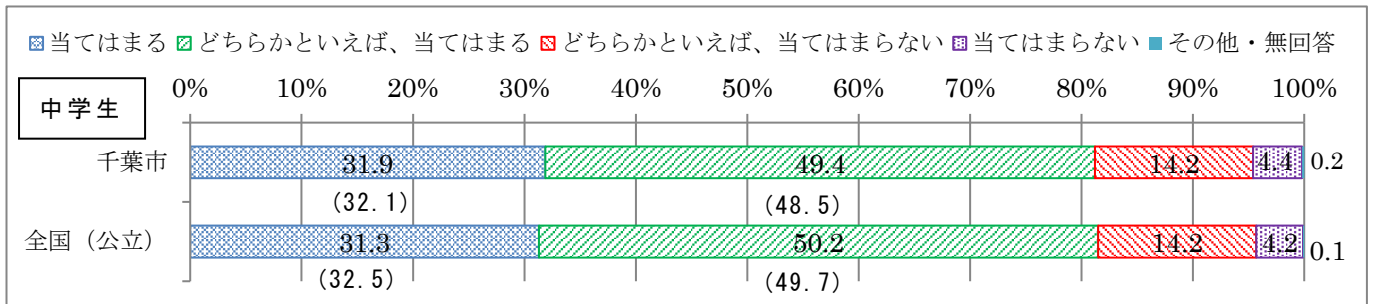


・ 当てはまる、どちらかといえば当てはまる→80.3% (全国より 1.6 ポイント低い)

5 先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか。(小6)(中6)

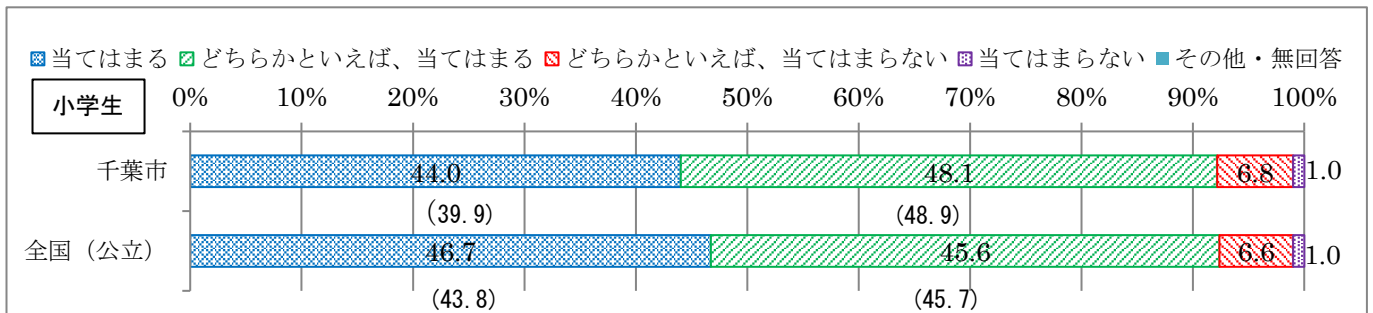


・ 当てはまる、どちらかといえば当てはまる→86.2% (全国より 0.1 ポイント高い)

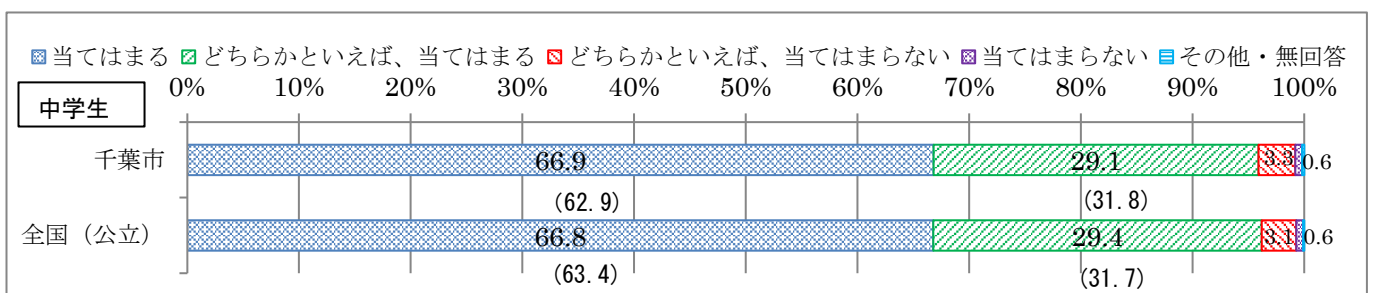


・ 当てはまる、どちらかといえば当てはまる→81.3% (全国より 0.2 ポイント低い)

6 学校のきまりを守っていますか。(小13)(中13)



・ 当てはまる、どちらかといえば当てはまる→92.1% (全国より 0.2 ポイント低い)

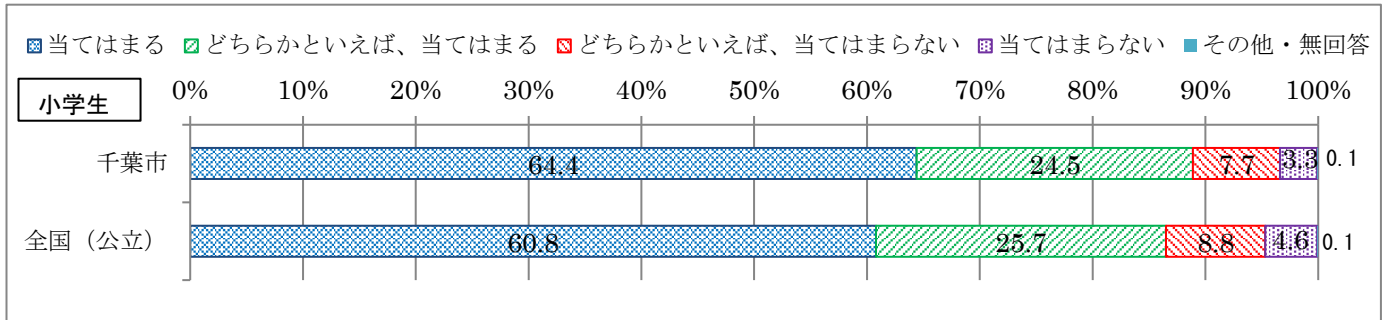


・ 当てはまる、どちらかといえば当てはまる→96.0% (全国より 0.2 ポイント低い)

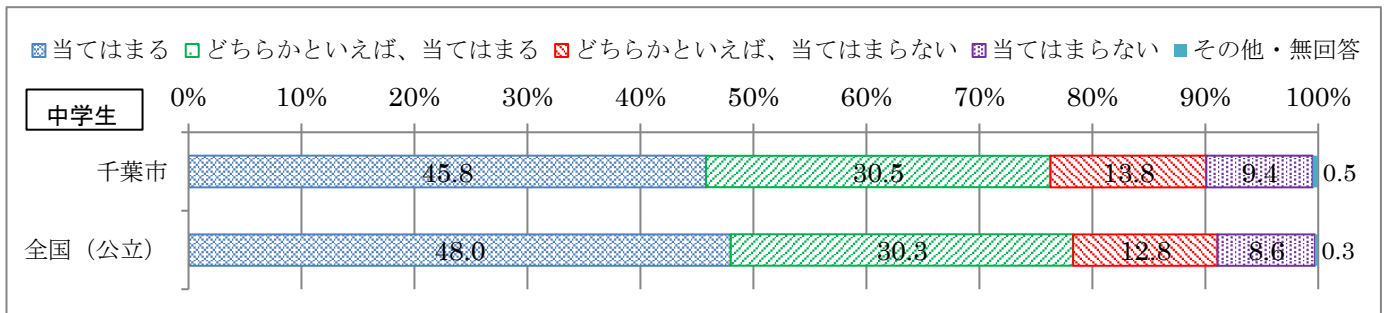
「学校に行くのは楽しいと思いますか」「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」「学校のきまりを守っていますか」の3つの質問ともに、本市小・中学生の肯定的な回答率が80%を超えている。全国との比較では、ほぼ同程度の数値を示しているが、前回の全国との差を比較すると、3つの質問ともに0.2～1.0ポイントの向上が見られる。特に「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」の質問では、小学生で全国平均を上回り、中学生では、全国平均との差を1.0ポイント縮める伸びを示している。

〔ICT の活用、主体的・対話的で深い学びに関する意識〕

7 授業でもっとコンピュータなどの ICT を活用したいと思いますか。（小 28）（中 31）

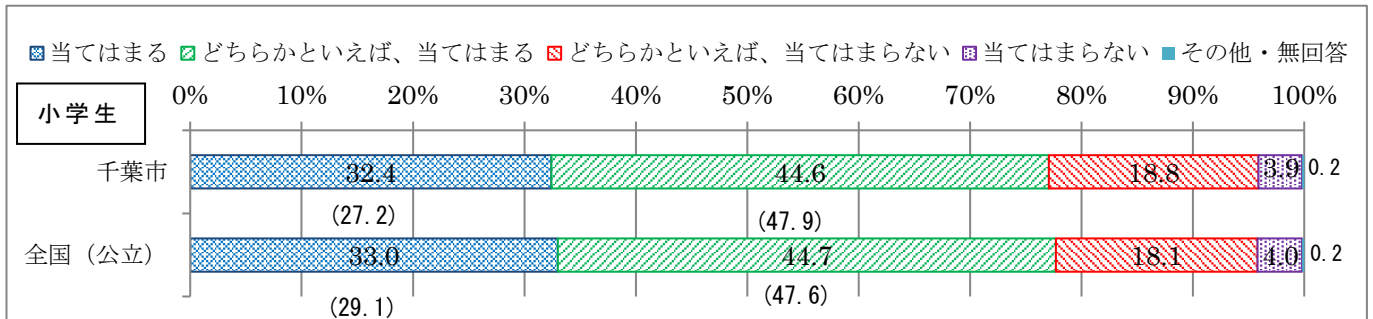


・ 当てはまる、どちらかといえば当てはまる→88.9%（全国より 2.4 ポイント高い）

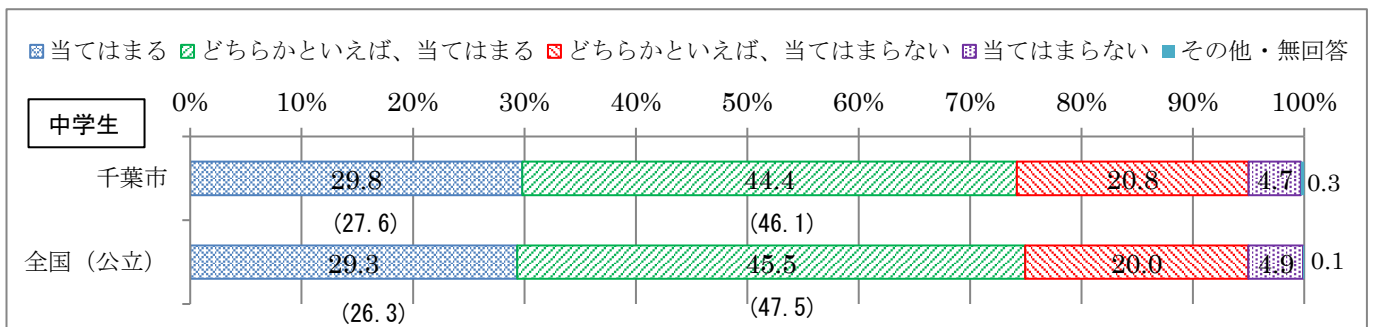


・ 当てはまる、どちらかといえば当てはまる→76.3%（全国より 2.0 ポイント低い）

8 5 年生まで（1・2 年生のとき）に受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思いますか。（小 35）（中 37）

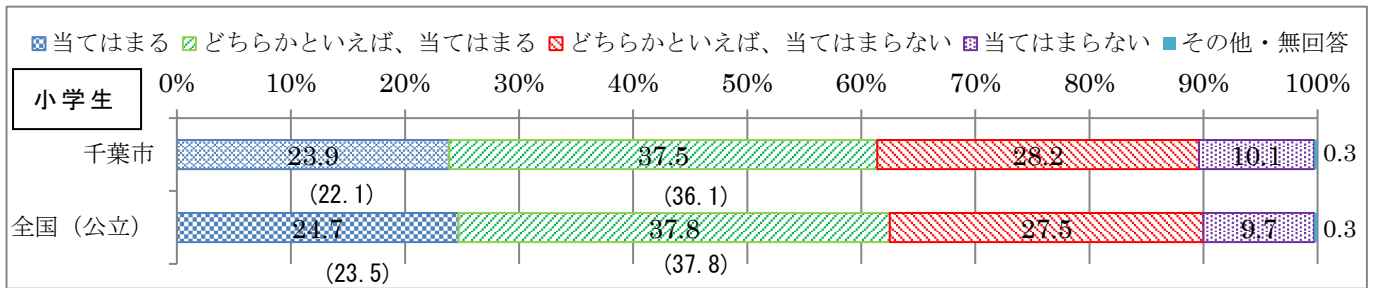


・ 当てはまる、どちらかというとき当てはまる→77.0%（全国より 0.7 ポイント低い）

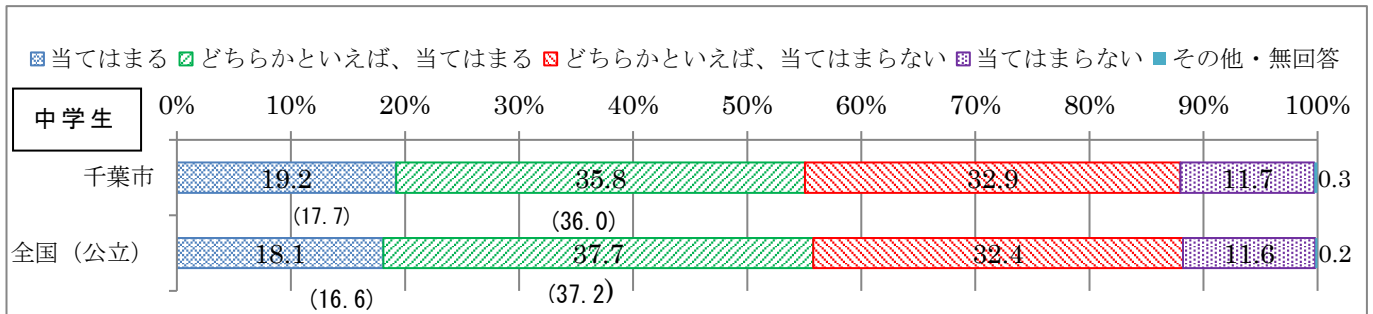


・ 当てはまる、どちらかというとき当てはまる→74.2%（全国より 0.6 ポイント低い）

9 5年生まで（1・2年生のとき）に受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していたと思いますか。（小 36）（中 38）

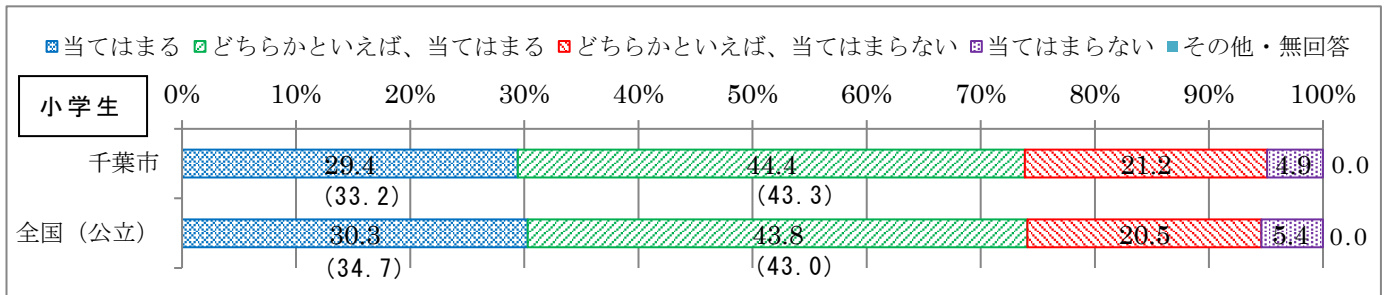


・ 当てはまる、どちらかというとき当てはまる→61.4%（全国より 1.1 ポイント低い）

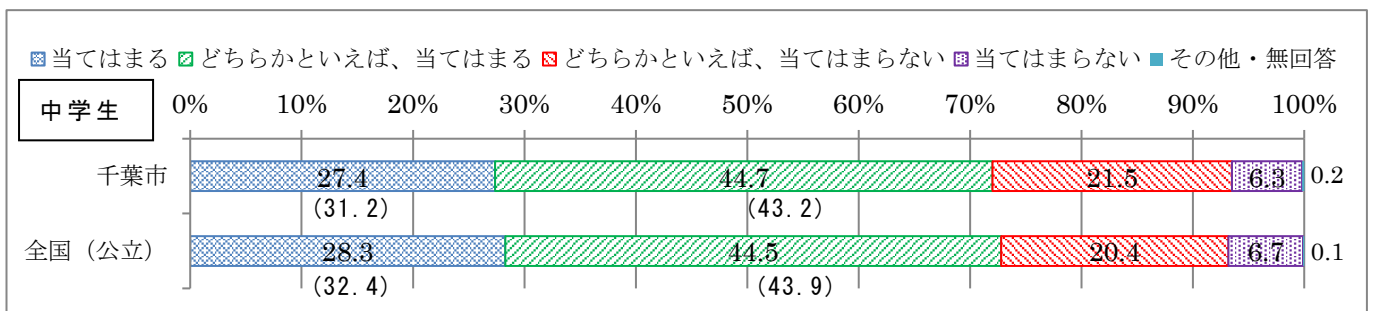


・ 当てはまる、どちらかというとき当てはまる→55.0%（全国より 0.8 ポイント低い）

10 学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか。（小 29） 生徒の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか。（中 32）



・ そう思う、どちらかといえばそう思う→73.8%（全国より 0.3 ポイント低い）

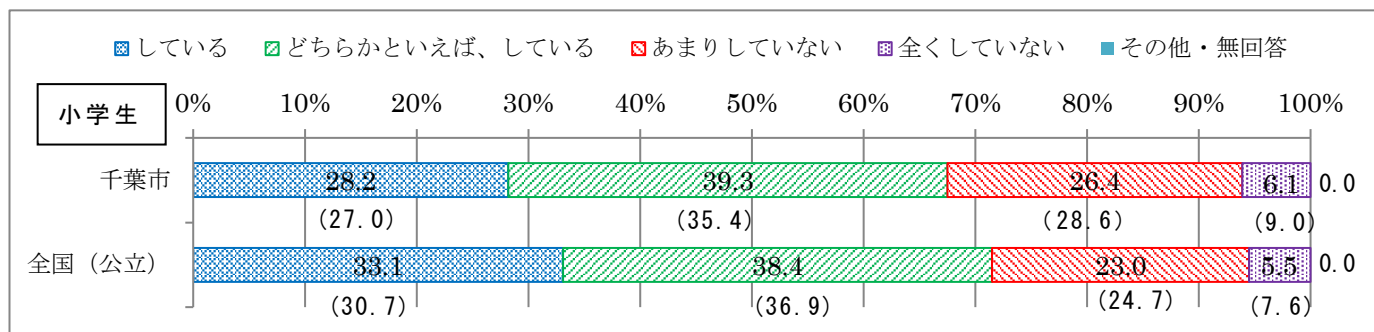


・ そう思う、どちらかといえばそう思う→72.1%（全国より 0.7 ポイント低い）

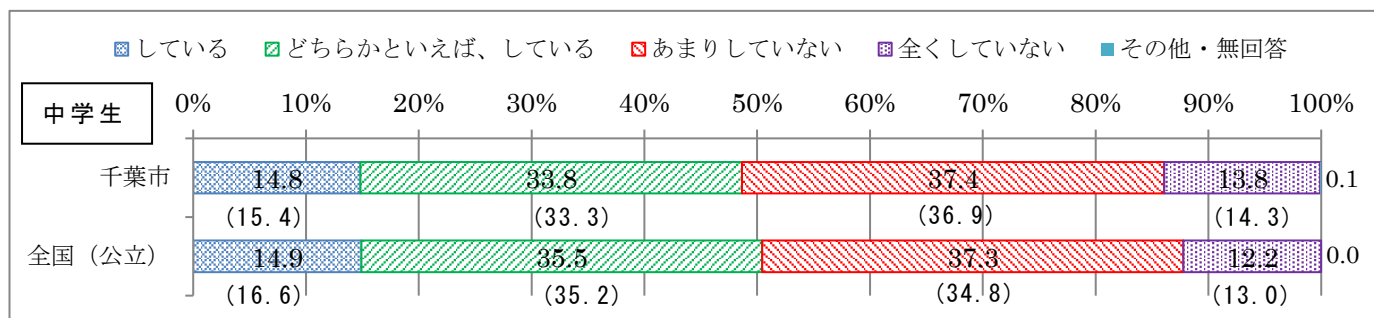
設問 7 から、ICT を活用した授業について 75% を超える児童生徒が要望しているが、その割合は、小学生は全国よりも高く、中学生は全国よりも低い。設問 8 から、課題の解決に向けて、主体的に取り組んでいたと考える児童生徒の割合は 70% 以上である。設問 10 では、70% を超える児童生徒が「話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり広げたりすることができている」と感じている。しかし、設問 9 では「自分の考えを発表する際には、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していた」と考えている児童生徒は、55～61% 程度である。このことから、「話し合う活動」において、自分の考えや意見を、根拠をもって説明できていない状況が推察される。児童生徒がより思考する「話し合い活動」となるよう、「主体的・対話的で深い学び」の視点を踏まえた授業改善を積極的に進めていく必要がある。

〔家庭での学習に関する意識〕

11 家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか。(小 17)(中 17)

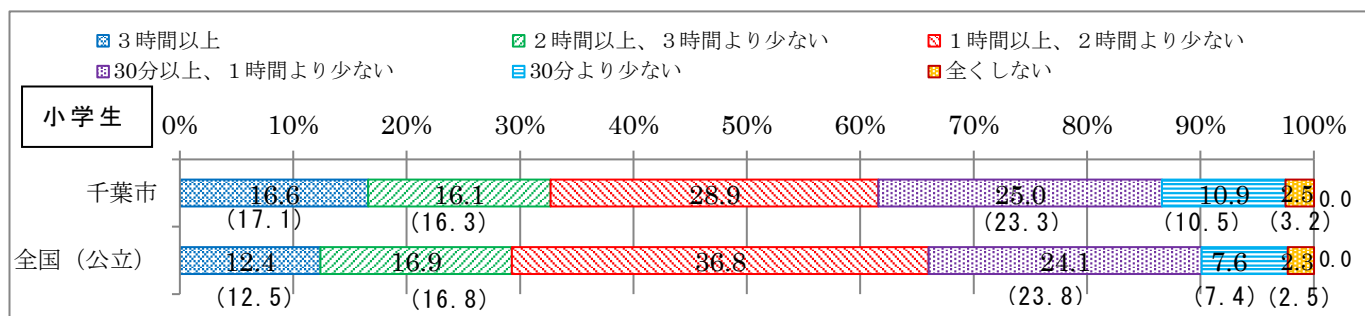


・勉強をしている、どちらかといえばしている→67.5% (全国より 4.0 ポイント低い)



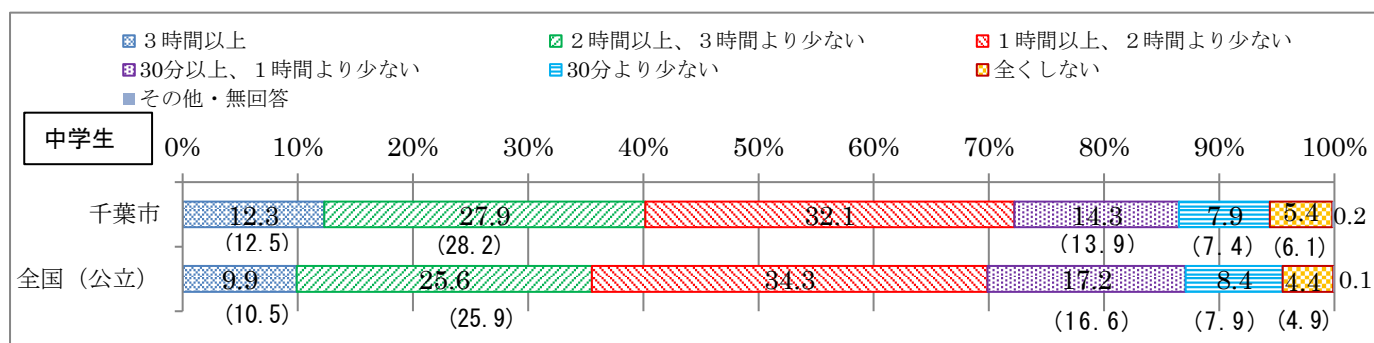
・勉強をしている、どちらかといえばしている→48.6% (全国より 1.8 ポイント低い)

12 学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。(学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む)(小 18)(中 18)



・1日2時間以上勉強をしている→32.7% (全国より 3.4 ポイント高い)

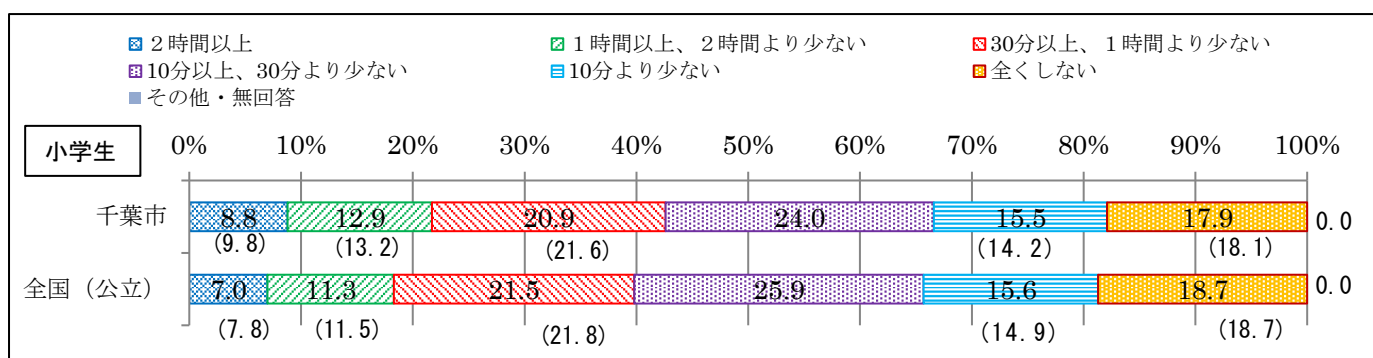
全くしない→2.5% (全国より 0.2 ポイント高い)



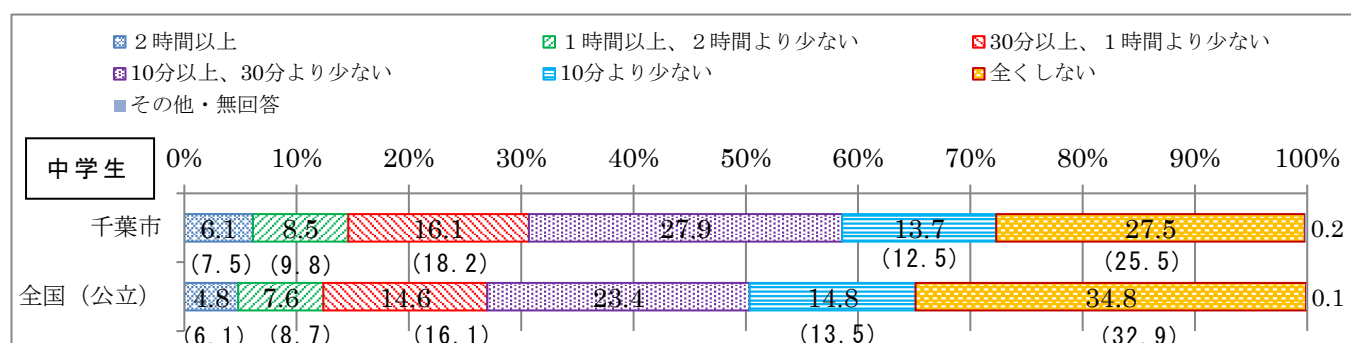
・1日2時間以上勉強をしている→40.2% (全国より 4.7 ポイント高い)

全くしない→5.4% (全国より 1.0 ポイント高い)

13 学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、読書を行いますか（教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）（小19）（中19）



- ・ 1日1時間以上読書をしている→21.7%（全国より3.4ポイント高い）
- 全くしない→17.9%（全国より0.8ポイント低い）



- ・ 1日1時間以上読書をしている→14.6%（全国より2.2ポイント高い）
- 全くしない→27.5%（全国より7.3ポイント低い）

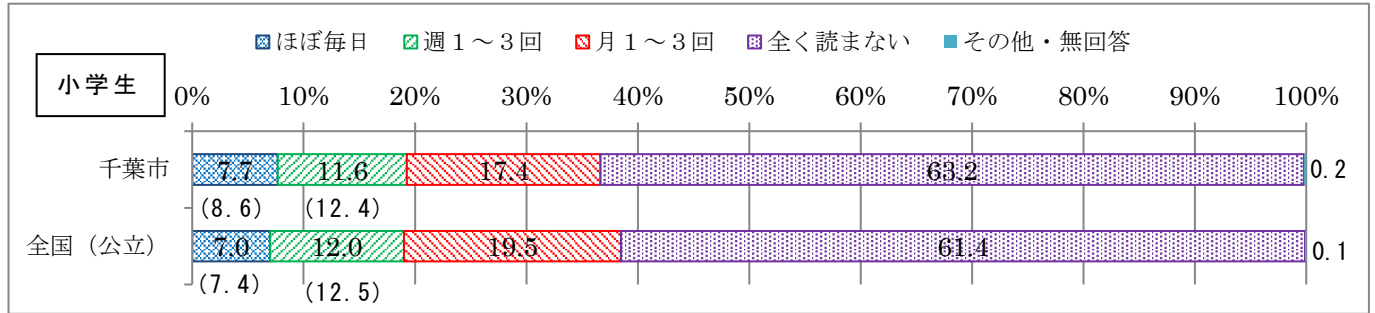
「家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか」への肯定的な回答率は、小・中学生ともに昨年度よりも全国との差は縮まっているものの未だに低い状況である。家庭での学習習慣と学力との関連（文部科学省・国立教育政策研究所『平成31年度全国学力・学習状況調査報告書質問紙調査』『質問紙と学力のクロス分析』の中で、学習習慣等と学力の相関が示されている。）を踏まえて、今後も家庭学習の定着を図っていく必要がある。

設問12より、普段1日2時間以上学習している児童生徒の割合は、小・中学生ともに全国よりも高い。しかし、昨年度と同様に「30分より少ない」と「全くしない」を合わせた児童生徒の割合も全国より高く、学校の授業以外の時間に学習する児童生徒と、しない児童生徒の二極化が今年度も見られる。

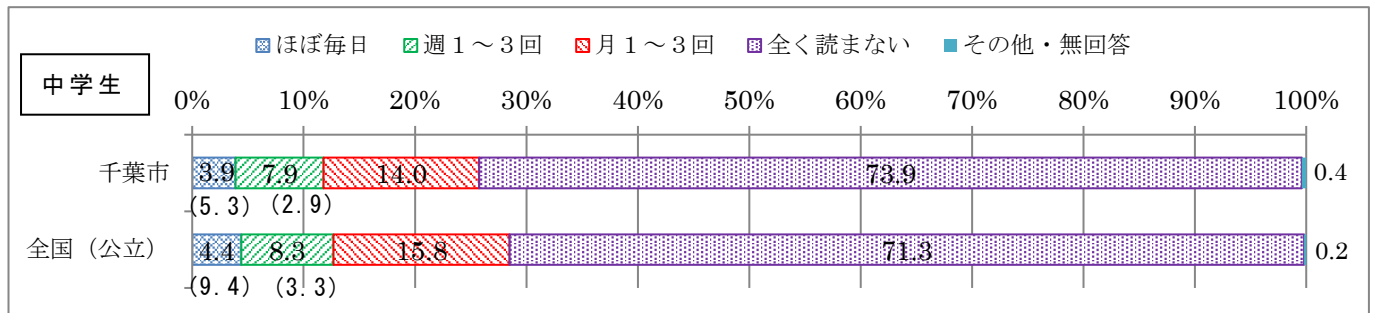
設問13より、読書をしている時間の割合が全国よりも高いことが分かる。また、「全くしない」と回答した割合も小・中学生ともに全国よりも低く、読書を行っている児童生徒が多いことが分かる。このことは、読書活動の推進等の成果と考えられる。今後も読書を通して優れた表現や様々なものの見方・考え方に触れさせ、参考にさせることで、想像力を育み、豊かな心を耕すとともに、表現力の育成にもつなげていくことができると考える。そのためにも、読書に継続的に取り組みながら表現活動と関連付けることによって、言語能力の育成を図っていくことが大切である。

〔社会に対する関心や地域との関わりに関する意識〕

14 新聞を読んでいますか。(小 22) (中 22)

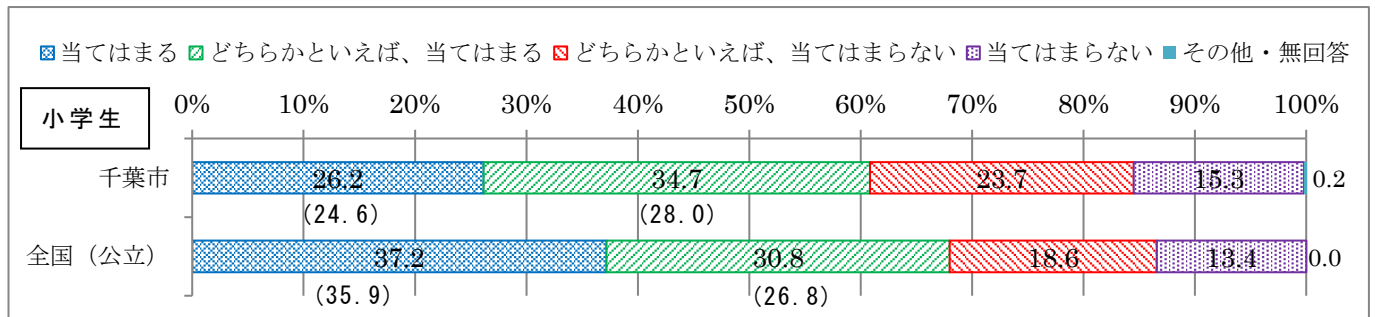


・ ほぼ毎日読んでいる、週に1～3回程度読んでいる→19.3% (全国より0.3ポイント高い)

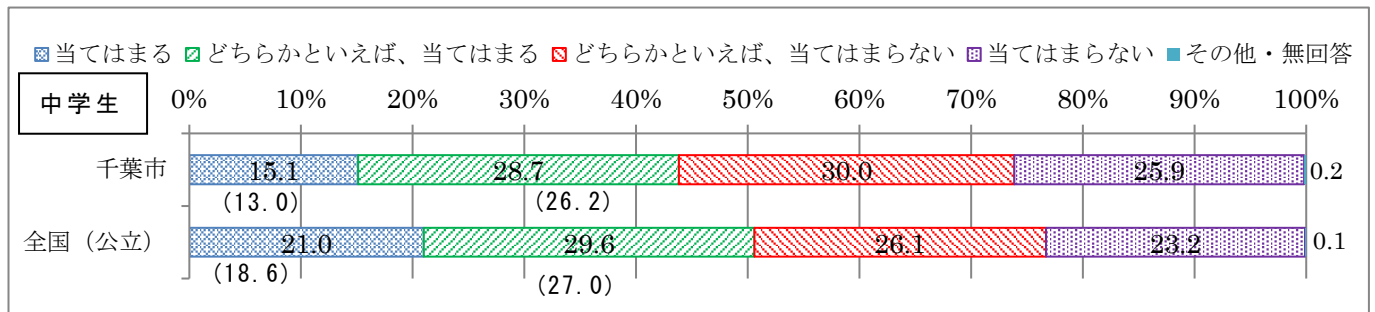


・ ほぼ毎日読んでいる、週に1～3回程度読んでいる→11.8% (全国より0.9ポイント低い)

15 今住んでいる地域の行事に参加していますか。(小 23) (中 23)

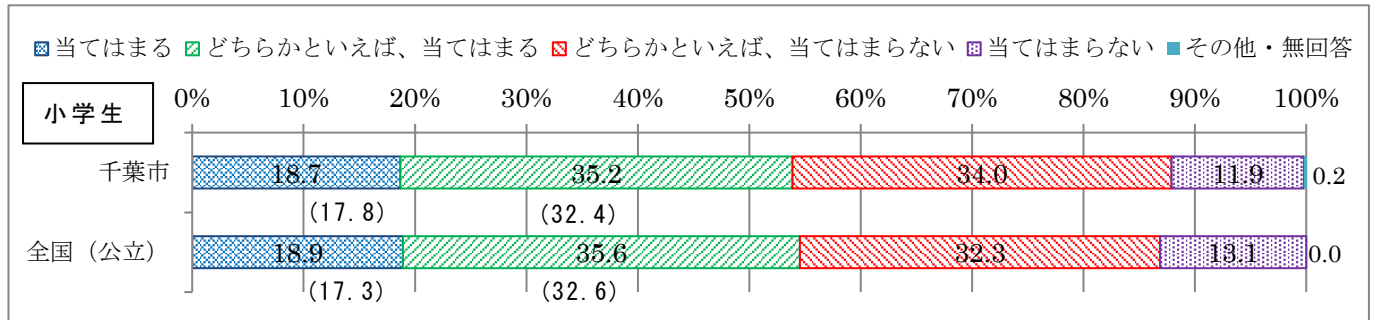


・ 当てはまる、どちらかといえば当てはまる→60.9% (全国より7.1ポイント低い)

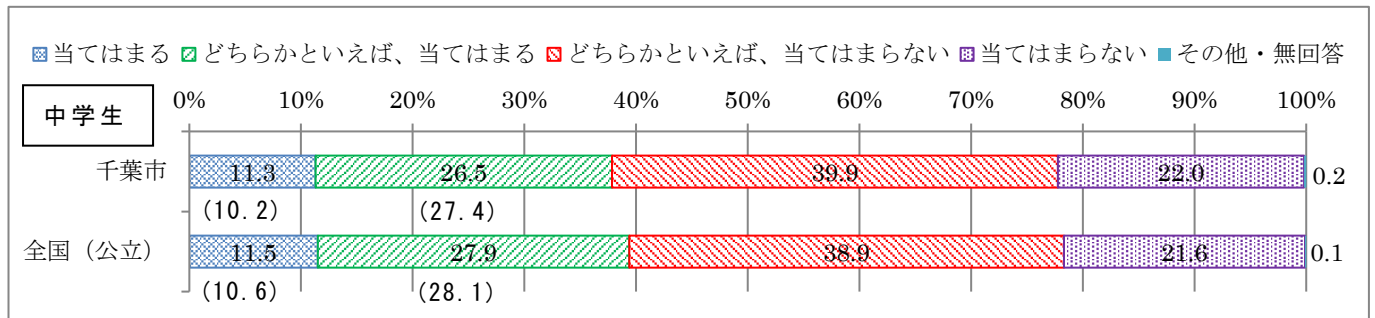


・ 当てはまる、どちらかといえば当てはまる→43.8% (全国より6.8ポイント低い)

16 地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか。(小 24) (中 24)



・ 当てはまる、どちらかといえば当てはまる→53.9 % (全国より 0.6 ポイント低い)



・ 当てはまる、どちらかといえば当てはまる→37.8 % (全国より 1.6 ポイント低い)

「新聞を読んでいますか」の質問で週に1～3回程度以上読んでいると回答した割合は、小学生で約19%、中学生では約12%で、全国と同程度の数値である。しかし、「全く読まない」と回答した割合は、小・中学生ともに全国よりも高く、8割を超える児童生徒が、月に1～3回程度しか読まない、または、全く読まないという状況であることが分かる。

設問15の「今住んでいる地域の行事に参加していますか」についても、肯定的な回答率は全国を6ポイント以上下回っている。また、地域への行事の参加についての全国との差は、小・中学生ともに全設問中最大となっている。

設問16の「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか」の肯定的な回答率は、小学生で約54%、中学生で約38%である。全国と比較して、小学生はほぼ同程度、中学生はやや低い数値である。小学校では、教科等での地域に関することを学ぶ機会を生かして、さらに地域と連携した活動の充実を図っていくことが重要である。また、中学校では、教育課程の中でこうした取組の機会を多く設定していく必要がある。児童生徒が地域の施設を利用したり地域の人から学んだりしながら、地域のよさや多くの人と関わり合うことのよさを実感し、社会に関心を持ち視野を広げていくことが大切である。

4 今後の取組

- (1) 児童生徒の確かな学力の定着を図るため、授業改善を推進する。そのために以下のような取組を行う。
 - 市内全小・中学校において、全国及び千葉県学力状況調査の結果等をもとに自校の学力の傾向や課題を把握し、その改善に向けた学力向上アクションプランの見直しを行う。アクションプランは全職員で共有し、検証と改善を重ねながら実践に取り組み、次年度以降の学力の向上に生かす。
 - 各教科の改善策や指導のポイントを示した「全国学力・学習状況調査の結果を踏まえた授業改善に向けて」を作成し、各学校に配付して、校内研究での活用を図る。
 - 教科指導におけるICT活用の促進を図る。
- (2) 「教育だよりちば」やWebサイト等を通して、家庭学習の大切さや家庭での児童生徒の望ましい生活習慣の在り方を広く保護者に発信する。
- (3) 児童生徒が、これまで以上に各教科や領域において、地域の様子を調べたり、地域の人と関わったりする学習を進めるよう学校に助言する。